

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助活動中の油圧救助器具使用時の事故
3. 体験した事例の中心的要素	<p>交通救助で出勤し、運転席のドアは大破し助手席側のドアを開放し救出する方が早いと判断しスプレッターにて開放を試みる。</p> <p>助手席側には電柱があったが、距離があるので活動には支障ないとおもった。</p> <p>いざドアをこじあげようとする、先端の爪の部分均等に開かず、操作部の取っ手が電柱方向に偏り始め、最後には電柱と接近し手を挟まれて始めて気づいた。</p> <p>このままでは、手が潰れると思いとっさに引き抜いた。</p> <p>皮手袋越しに電柱の突起による擦過傷を負い、完治までに2週間かかる。</p>
4. 体験した事例の原因・理由	救助活動に気をとられ周囲の電柱に気づけなかった。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 5 年 8 月 15 日 午後 3 時頃
2. 発生した当時の天候	わからない
3. 発生した活動現場	屋外：国道185号線上の交通事故現場
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
7. 事例体験時の活動	救助現場活動初期、 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	人命検索・救出、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[28]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[10]年、階級[消防士]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	スプレッタを使用し事故車両のドアを開放中電柱と救助器具の持ち手部分に手を挟む。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

小隊内で反省会を実施し、救助現場での安全管理と活動中の周囲の確認を常に心がけるよう隊員に徹底した。

○装備・資機材の対策について

救助器具の作動スイッチが手元を回転させる物から、ボタン式に更新時に変更した。

○活動環境の対策について

救助器具を使用するときは、足場が斜面であったりぬかるみがある場合には、可能な限り事前に応急的に足場を整えるように申し合わせた。

○指揮・情報伝達の対策について

指揮者は救助活動にかかった時点から、活動の最先端にいる隊員に積極的に声をかけ、落ち着かせ定期的に周囲の状況を隊員に伝えるように心がけるようにした。

現場再現写真(救助活動中)

